

令和3年度技術力維持・向上対策研修（実践研修） 中部ブロック研修を実施

林野庁では、市町村の森林・林業行政を技術面で支援する役割を担う森林総合監理士をはじめとする技術者の技術水準の維持・向上を図ることを目的として、森林管理経営制度、地域森林・林業の再生、林業の成長産業化等に資する地域課題をテーマに、現地検討及びグループ討議等を通じて、現場レベルでの課題解決手法の習得を図る研修として、今年度は全国4ブロックで実施しました。

中部ブロックでは、当初9月14日から16日の実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により、11月10日から12日に日程を変更し、岐阜県下呂市内において、「伐採・造林一貫作業システム（架線）と木材流通」をテーマに、静岡県・愛知県・富山県・石川県・京都府・鳥取県の職員6名、（国研）森林整備センター（神奈川県、愛知県）職員2名、国有林職員2名、計10名が参加し実施しました。伐期を迎えた林分の主伐を計画する上で、林地の状況等に応じた搬出方法の選択、低コスト造林や市場のニーズを踏まえた採材方法等について、課題解決の向上、実践的な指導・助言ができる技術者の育成を図ることとして、国有林の主伐・再造林事業地等を活用した現地検討及び意見交換を実施し、研修会場にて発表・討議を行いました。

【1日目】開講式、「伐採・造林一貫作業システム」、「採材・仕分け」の講義の後、架線搬出演習地について検討図面等による積算因子等の算出・伐採計画の演習、現地確認箇所の踏査準備を行いました。



開講式挨拶
（中部局 山口森林整備部長）



架線系搬出演習の説明
（資源活用課 日置企画官）



ドローン空撮画像等を参考に搬出の検討



各班へ講師も入りサポート

【2日目】下呂市乗政国有林において、伐採・造林一貫作業実行箇所、架線集材検討予定地、木材市場（下呂総合木材市売協同組合）での現地検討・見学の後、研修会場の下呂市民会館に戻り発表準備を行いました。



伐採・造林一貫作業実施箇所での現地説明
(岐阜森林管理署 大森総括森林整備官
原田 主任森林整備官)



現地にて架線集材施設の検討



図面を見て伐採予定地の現地確認



流通販売について講義
(下呂総合木材市売協同組合 杉山理事長)



真剣な眼差しで流通販売の講義を受講



有利販売のための採材等の講義

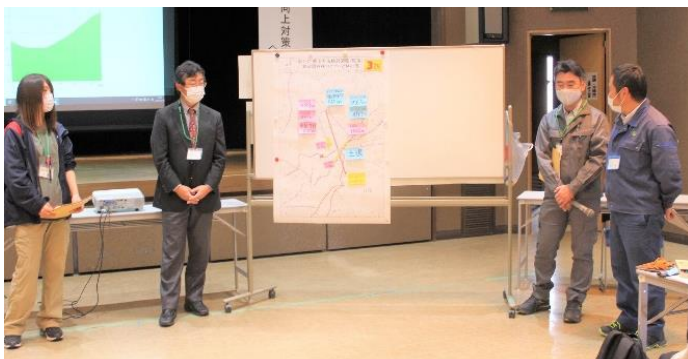
【3日目】前日に続き下呂市民会館において発表準備を行った後、作業システムや搬出方法、造林作業の省力化、採材・流通販売等について発表及びディスカッションを行いました。発表の後は、各講師等から講評をいただき3日間の全日程を終了しました。



1 班の発表



2 班の発表



3 班の発表



発表に対する質問



質問に対する回答



講評及び解説（資源活用課 永瀬企画官）



講評
（林野庁業務課 小口課長補佐）



閉講式挨拶
（森林技術・支援センター 曾我所長）



集合写真（撮影時のみマスクを外しました）

◎受講生へのアンケート結果（抜粋）

- ・ 架線系集材の知識を知ることができたためになった。また、資料や動画もわかりやすかった。
- ・ 架線系の基礎知識が無かったので、関連した講義があるとよかった。
- ・ 場所によっては必ず架線集材を選択するため、提案に向けて活用できる。
- ・ 架線、伐採・造林一貫作業に関しては実習を含め初めてだったので貴重。
- ・ 手で作図したのは理解するのに良かった。
- ・ 講師のアドバイスが適切に入り助かった。
- ・ 事業体や市等と一丸となり、地元で架線集材について取り組んでいきたい。
- ・ システム販売の内容についても、説明して欲しかった。
- ・ 林業の知識、技術を高めていかなければならないと感じさせられた。